

16. Ga-67 集積を示した胃病変

富田 雅義 入江 五朗 (北大・放)
伊藤 和夫 古舘 正従 (同・核)

Ga-67 scintigraphy において胃集積があると診断した 24 症例について、胃病変とその集積の pattern による病変の相違の有無に関し、retrospective に検討した。

その結果、24 症例中、胃悪性リンパ腫 7 例、胃癌 4 例、胃炎 2 例、胃潰瘍 2 例、胃摘後吻合部膿瘍 1 例、胃病変なしが 8 例であった。

胃集積の pattern によって 4 型に分類すると focal, irregular pattern では malignancy の可能性が考えられ、特に悪性リンパ腫は後者であることが多いと考えられた。また、rod, wall pattern では腸管との鑑別が問題となるが malignancy の可能性は少ないと思われた。

上腹部では生理的集積とその解剖学的複雑さのため、胃集積の判定が困難な場合もあるが、集積の pattern によっては malignancy の存在を十分考慮する必要がある。

17. 骨・軟部組織腫瘍の ⁶⁷Ga スキャン

西澤 一治 三浦 孝 木村 環
竹川 鉦一 (弘前大・放)
中村 恵彦 (青森厚生病院・放)
兼平 二郎 (弘前市立病院・放)

原発性骨腫瘍 26 例、軟部腫瘍 36 例の計 62 例に、⁶⁷Ga スキャンを施行し、有用性を検討した。症例は良性 38 例、悪性 24 例で、結果は悪性腫瘍では 24 例中 20 例、83.3% に集積し、組織別では、悪性骨腫瘍で 8 例全例が集積したのに対し、悪性軟部腫瘍では 16 例中 12 例、75% のみ陽性で、また良性腫瘍でも 38 例中 12 例、約 32% に集積し、鑑別に用いるには心許ない結果であった。悪性腫瘍での decision matrix は、sensitivity は 83% と良好だが specificity は 68% と低く、全体での accuracy は 74% にすぎない。Ga と Tl の組み合わせによる検討では、両者とも陰性の場合を良性とするなら、その specificity は 100% となる。

軟部組織腫瘍では、neurogenic tumor において 5 例中 4 例に集積が認められ、特徴的であった。

18. 悪性黒色腫の Ga-67 と I-123 IMP の比較

久保 公三 伊藤 和夫 加藤千恵次
塚本江利子 中駄 邦博 古舘 正従
(北大・核)
杉原 平樹 星 光聡 (同・形成)

脳血流測定用放射性薬剤として開発された I-123 IMP ははやくから悪性黒色腫への集積の可能性が言われていた。一方、悪性黒色腫は Ga-67 の良く集積する腫瘍として知られていた。そこでわれわれは両者による検査を 11 症例に施行し、根治術後の follow up 検査の 6 例 (A 群)、根治術前検査の 5 例 (B 群) の 2 群にわけて比較検討を加えた。投与量は I-123 IMP が 3 mCi, Ga-67 が 2 mCi でほぼ同時期に施行した。その結果、A 群では I-123 IMP で胸部(肺)の病変を指摘しえなかったほかは両者とも良好な結果を示した。しかし、B 群では原発巣および転移巣(所属リンパ節)の検出能は I-123 IMP が Ga-67 より優れていた。また両検査の併用はより有効であると考えられた。

19. ¹³¹I-metaiodobenzylguanidine の集積を示さなかった paraganglioma の一例

塚本江利子 伊藤 和夫 加藤千恵次
川村 直之 中駄 邦博 古舘 正従
(北大・核)
菊池 徹 (道立小児総合保健セ)

¹³¹I-MIBG シンチグラフィにて明らかな異常集積を認めないクロマフィン顆粒の豊富な paraganglioma を経験した。¹³¹I-MIBG は、褐色細胞腫において false negative が 10-20% あることが知られており、その原因は明らかにされていない。今まで考えられている ¹³¹I-MIBG の集積を減少させる原因としては、1) レセルピンなどの薬剤による影響、2) 腫瘍内のカテコールアミンの rapid turnover、3) ノルアドレナリンとの取り込みの競合、4) 少ない腫瘍内の顆粒である。本症例において 1), 4) はあてはまらず、血中および尿中ノルアドレナリンが高いことから 2), 3) の原因が推定された。